

別冊 おおいだものがたり

～資料館資料編～ ■最上川美術館「開館20周年記念展『最上川展～小松均・真下慶治が愛した母なる川～』より

今回ご紹介する作品は、小松均作『栗の花咲く最上川』です。この小欄でも幾度か取り上げていますが、この度展示されている先は大石田町立歴史民俗資料館ではなく村山市最上川美術館・真下慶治記念館となります。最上川美術館で現在開催中の「開館20周年記念展『最上川展～小松均・真下慶治が愛した母なる川～』」には、当館から『栗の花咲く最上川』を出品しています。

上・中・下の三部作となる『栗の花咲く最上川』は、いずれも縦100cm×横360cmほどの大画面で、「上」は大浦小坂の高台から最上川を見下ろした構図です。一方「中」と「下」では目線が最上川に近づき、大浦地内の県道の辺りから駒籠の集落を対岸に見た景色が描かれます。実はこの「中」「下」二点は風景がつながっており、二点を左右に配置することで一つの作品として鑑賞することができます。当館の展示室ではスペースの制約のため、残念ながら「中」「下」を連続してお見せすることはできないのですが、最上川美術館の常設展示室ではそれが可能になります。この度の企画展ではこの二点はほぼ接着されたような配置でかけられており、その連続性がより感じられるのではないかと思います。

前述のように各々が非常に大きな『栗の花咲く最上川』の三作ですが、そのうちの「中」と「下」がつながると7mを越える最上川絵巻とも言うべき作品が完成します。絵巻物語が右から左へと進んでいくように、この作品でも画面右から左へと最上川が流れています。その流れは、滔々と進んだかと思えば時に逆巻き白波を立て、時によどみ、浅瀬ではせせらぎを形作ります。様々な様相を見せる川の両岸では、初夏の強い光線を浴びた木々や民家、あるいは遠方の山々が濃い陰影となって絵巻を彩っています。

この「中」「下」の真ん中に立つと、もはや作品全体を捉えられません。視界の外から流れてきた最上川がまた視界の外へと流れ出ていくことになり、これはさながら現実の最上川を眼前にしている感覚に陥ります。そしてそれは画面を越えてさらに最上川の物語が展開していることを予感させるものでもあります。

この企画展には他にも『最上川源流』（山形美術館蔵）も出品されています。この作品は『栗の花咲く最上川』の前年（昭和45年）に描かれており、ほぼ同サイズの三部構成（源流、長井付近その1、長井付近その2）です。小松均の最上川シリーズの一角をなす二点を同時に鑑賞できる貴重な機会ですので、是非ご高覧ください。（大石田町立歴史民俗資料館学芸員 大谷俊継）



※開館20周年記念展「最上川展～小松均・真下慶治が愛した母なる川～」は最上川美術館にて令和6年10月15日（火）までです。大石田町立歴史民俗資料館ではありません。



大石田町公式アカウント開設

LINEはじめました

防災情報や各種行政情報を受け取ることができます。

友だち登録をお願いします！

登録方法

右の二次元コードを読み取って友だちに追加してください。



大石田町公式LINE

防災放送の内容を 電話で確認できます

防災放送が聞き取りにくい、放送内容を確認したい等のご意見をいただき、町では防災放送確認ダイヤルサービスを開始しました。

このダイヤルは定時（夕方6時のメロディ等）放送を含め、直近の放送から8時間以内の内容を順次聞くことができます。

確認ダイヤル：0237-48-8444

■総務課総務グループ TEL35-2111（内線218）

町の人口 令和6年9月1日現在

世帯数	2,225戸	(-1)
総人口	6,035人	(-2)
男	2,997人	(-3)
女	3,038人	(+1)

(8月中の異動)

出生	2人	転入	12人
死亡	8人	転出	8人

※この人数は外国人も含めたものです。